

概

況

概況

1. 取扱高

(1) 年間取扱高

平成8年中（1月5日から12月30日、開市日数 272日）の総取扱数量は、725,624tで前年比98.3%と前年を下回り、総取扱金額は、696,942百万円で前年比 102.5%と前年を上回った。総平均価格は960円で、前年に比べ39円高となった。本年は、夏場から病原性大腸菌O-157が多発し、刺し身需要が減少するなど市場取引に影響を与えた。

取扱数量と平均価格を種別毎にみると、鮮魚は、スルメイカが増加したものの、メジ・カツオ・ハマチ・サンマの減少などから、183,138tで前年比95.5%、58円高の1,025円となった。活魚は、マタイやスズキが増加したものの、アナゴ・カンパチ・ハマチなどが減少し、13,995tで前年比95.5%、1,800円で151円高となった。貝類は、アサリ・アカ貝・ホタテ貝などの増加から、前年比102.6%の57,631t、29円安の900円となった。冷凍品は、マグロ類・イカ類・エビ類と主要品が減少し、前年比97.1%で186,010t、91円高の1,119円となった。淡水魚は、生鮮、冷凍とも前年を下回り、4,185tで前年比97.2%、20円高の1,287円となった。海藻類は、生コンブ・塩ワカメがやや減少したものの、前年比102.1%の7,761t、3円高の396円となった。加工品は、練製品が減少したものの、塩蔵品類・塩干品類・煮干製品と順調で、100.3%の272,904t、7円高の790円となった。

(2) 月別取扱高

1月

☆鮮魚 取扱数量 13,265t（対前年比 99.5%）
平均価格 1,104円（ " 7円高）

取扱数量では、マグロ類は、マグロの国内物が1.2割減、輸入物は小型物中心に1.7割増、メジは引き続き入荷が多く4.2割増、メバチは国内物が0.2割、輸入物も0.4割の減少となった。マアジは漁獲が順調だったものの入荷量はほぼ前年並、九州の巻き網物が主体のサバは0.4割減となった。マイワシはこの時期の主力となる北陸方面の定置網漁の不振で1.6割減、スルメイカは山陰・北陸を主体に0.3割増、ハマチは入荷の最盛期が過ぎたものの依然順調な入荷で好調だった前年並となった。タラ類は0.3割増、アンコウは3.6割増となった。平均価格では、マグロ類では、マグロの国内物が0.8割安、輸入物が0.9割高、メジは入荷が多かったものの昨年の安値から1.3割高、メバチは国内物が0.2割、輸入物も1.1割の安値となった。マアジ・サバはやや値を上げ、マイワシは品薄から6.5割高、スルメイカ・ハマチはほぼ前年並となった。キンメタイは1.5割安、タラ類は0.6割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,136t（対前年比 105.7%）
平均価格 1,629円（ " 14円高）

取扱数量では、アナゴとマタイがともに0.9割増、ハマチも0.7割増、カンパチが1割減となった。平均価格では、マタイが1割安となったものの、カンパチが3.9割高、アナゴ、ハマチが前年並となった。

☆貝類 取扱数量 4,737t（対前年比 106.7%）
平均価格 955円（ " 59円安）

取扱数量では、ムキカキ、アサリが減少したものの、アカ貝、ホタテ貝などが増加した。平均価格では、アカ貝が3.4割安となるなど、入荷量の増加から全体に安くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 12,438t（対前年比 91.5%）

平均価格 1,096円（ " 44円高）

取扱数量では、マグロ類は、メバチがやや減少したものの、印度マグロの1.3割増など、全体では0.3割増となった。イカ類は、モンコウイカが7.9割と大きく減少したことから、全体で3.3割減、昨年入荷の少なかったカレイ類は1.8割増、サケ・マス類は、ベニサケの7割減から、全体で2.2割減となった。エビ類もアカエビの2.9割減など需要の停滞から全体で0.9割減となった。ギンタラは2.8割増、タコが4割減となった。平均価格では、マグロ類は、メバチが入荷の減少からやや値を上げたことから、全体で0.7割高となった。イカ類は、スルメイカ（国内物）が2.2割安となったもののモンコウイカ・ムキイカなどが高いことから、全体で0.8割高、サケ・マス類は、入荷が減少したものの買い気弱く、全体で2.1割安となった。エビ類は0.2割高、サバは2.3割高、タコも0.4割高となった。

☆加工品 取扱数量 19,100t（対前年比 99.3%）
平均価格 716円（ " 2円安）

取扱数量では、塩蔵品は、塩サケが全般に増加し、イクラが4割増となったことから、全体で0.4割増、塩干品は、シシャモが1.2割増となったものの、開干アジの0.6割減など、全体ではほぼ前年並となった。煮干製品は、煮干イワシ1.1割減などから、全体で0.8割減、練製品も0.4割減、湯煮品は前年並となった。平均価格では、塩蔵品は、塩サケの入荷増による安値から、全体で1.3割安、塩干品は、丸干イワシの2割高や、開干アジの1.4割高など、全体でも0.9割高となった。煮干製品は0.7割高、練製品も0.3割高となった。

2月

☆鮮魚 取扱数量 13,874t（対前年比 96.2%）
平均価格 1,066円（ " 59円高）

取扱数量では、マグロ類では、前年低調だったマグロの国内物が7.1割増、逆に輸入物は5.4割減、メジは7.6割減となったものの例年並の入荷、メバチは、国内・輸入とも減少した。マアジは、産地での水揚げも上向き0.2割増、サバは1.1割減、マイワシは後半に山陰物が順調に入荷するなど1.1割増、スルメイカは不安定な水揚げから2.2割減少した。ハマチは0.6割減も順調な入荷、カツオは2.6割減、タラ類は1.6割増となった。平均価格では、マグロ類は、マグロが品薄となったことから国内物が0.3割高、輸入物も5.5割高となったほか、メジが昨年安値だったことから2倍を超える高値となり、メバチも値を上げ、全体に高値となった。マアジは0.6割高、サバは入荷の減少から1.1割高、マイワシは入荷が増加したもののまだ量が不足で2.1割高となった。スルメイカは1.9割高、ハマチも1.4割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,100t（対前年比 101.4%）
平均価格 1,668円（ " 106円高）

取扱数量では、カンパチが1.2割減となったが、ハマチが0.6割増、マタイが0.3割増、アナゴも0.3割増となった。平均価格では、カンパチが3割高、ハマチが0.9割高、アナゴもやや値を上げた。

☆貝類 取扱数量 5,100t（対前年比 114.2%）
平均価格 859円（ " 93円安）

取扱数量では、ムキカキが減少したが、アカ貝、ハマグリ、カキが2割程増加した。平均価格は、入荷の増加からやや安くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 15,131 t (対前年比 109.2%)
平均価格 987円 (" 12円高)

取扱数量では、マグロ類は、主力のメバチが 1.1割減となったものの、キワダの2.5倍増を始め、印度マグロが0.6割増など、全体では 0.1割の増加となった。イカ類は、昨年不調だったスルメイカ(国内)が 7.2割増と回復したものの、モンコウイカが 3.2割減、ムキイカの 2.4割減など、全体では 0.5割増に留まった。サケ・マス類は、ベニサケが半減するなど、全体でも 1.8割減、エビ類は 2.7割増、タコも 1.9割増、カレイ類は 0.6割減となった。平均価格では、マグロ類は、メバチが入荷減から 0.7割高となったことから、全体では 0.5割高となった。イカ類は前年並、サケ・マス類は入荷が少ないものの不調が続き 1.6割安となった。カレイ類は 1.6割高、タコも 0.5割高、エビ類は前年並となった。

☆加工品 取扱数量 21,398 t (対前年比 102.8%)
平均価格 712円 (" 15円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩サケ、スジコ、イクラを始め全般に増加し、全体では 0.8割増、塩干品は、開干アジが 0.2割減少したものの、全体では 0.2割とやや増加した。煮干製品は、煮干イワシの 2.6割増など、全体でも 0.3割増、練製品もやや増加した。平均価格では、入荷の増加した塩蔵品は、イクラの 3割安、スジコも 2.9割安となるなど、全体で 1割安、塩干品は、丸干イワシが 2.2割高、開干アジが 1.3割高などから、全体では 1割高となった。煮干製品も 1.7割高、練製品は前年並となった。

3月

☆鮮魚 取扱数量 14,020 t (対前年比 89.9%)
平均価格 1,116円 (" 88円高)

取扱数量では、マグロ類は、マグロ(国内)が 2.2割増となったものの、その他は全般に減少した。マアジは産地の水揚げが上向いたものの 0.7割減、サバも好漁となったものの入荷が伸び悩み 1割減となった。マイワシは山陰物主体で 1割増、スルメイカは産地での不振を反映し 3割の減少となった。ハマチは在池量も少なく 2.7割減、東海物主体のカツオも 0.7割減となった。平均価格では、マグロ類は、マグロ(国内)が入荷増から 0.4割安、メバチ(国内)は前年並のほか、全般に値を下げた。マアジは 1.7割高、サバは小型魚主体だったものの 1.7割高、マイワシは他の大衆魚が少ないこともあり 1.4割高、スルメイカは量の不足から 1.4割高となった。ハマチも 3.3割高、カツオは走り需要もあって 2.9割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,165 t (対前年比 91.9%)
平均価格 1,860円 (" 225円高)

取扱数量では、アナゴの 1.2割減、カンパチが 2割減、ハマチは 0.5割減、マタイも 0.6割減など、主要品目が減少した。平均価格では、アナゴが 2.9割高となったほか、全般に入荷の減少から高値となった。

☆貝類 取扱数量 5,133 t (対前年比 103.0%)
平均価格 893円 (" 27円高)

取扱数量では、アオヤギ、ムキホタテ貝、アカ貝など全般にやや増加した。平均価格では、アサリなどが高くなったが、全体では値を下げた。

☆冷凍魚 取扱数量 16,573 t (対前年比 97.7%)
平均価格 1,052円 (" 59円高)

取扱数量では、マグロ類は、主力のメバチの 1.2割減や、印度マグロの 0.5割減など、全体で 0.6割減となった。イカ類は、生鮮物の不調からスルメイカ(国内)が 2.2割増

となり、全体でも 2.1割増加した。サケ・マス類は、シロサケが 1.1割増となったものの、ベニサケの 5.9割減など、全体で 2割減、エビ類は 1.3割増となった。サバは 3.8割増、ギンタラは前年並、タコは 3.1割減となった。平均価格では、マグロ類は、入荷の減少したメバチが 1割、印度マグロが 0.4割と値を上げたことから、全体でも 1.2割高となった。イカ類は入荷が大きく伸びたもののほぼ前年並の価格となった。サケ・マス類は、ベニサケの 1.8割安など、入荷減少も荷動き悪く、全体で 1.5割安となった。エビ類は前年並、サバは生鮮物の品不足から 5.1割高、タコも 1.5割高となった。

☆加工品 取扱数量 24,020 t (対前年比 104.6%)
平均価格 776円 (" 50円高)

取扱数量では、塩蔵品は、イクラが 4.8割増のほか、アキ・シロ・ベニの各塩サケが何れも 6割以上増加するなど、全体で 3.3割増となった。塩干品は、開干アジが 1割減となったものの、シシャモの 3.2割増など、全体では 0.2割増、煮干製品は、シラス干が 5.3割減と前年を大きく下回ったが、全体では 1.9割の増加となった。練製品は 0.4割減、湯煮品は 0.3割増となった。平均価格では、塩蔵品は、塩サケを始め入荷量が増加したことから全般に安く、全体で 1.5割安となった。塩干品は、丸干イワシが 2.2割高、開干アジの 1.4割高など、全体でも 0.9割高となった。煮干製品は、シラス干の 4.4割高のあり、全体で 1.5割高、湯煮品も 1.3割高、練製品は、チクワ・カマボコ・揚物が値を上げたが、全体では前年並となった。

4月

☆鮮魚 取扱数量 14,205 t (対前年比 97.1%)
平均価格 1,099円 (" 103円高)

取扱数量では、マグロ類は、昨年低調だったマグロ(国内)が 3割増、輸入物も 0.2割増、逆に、メジは 7.3割減、メバチ(輸入)は 0.7割増、その他は全般に減少した。マアジは九州巻き網の好漁などから 0.5割増、サバは近海物を中心に順調な入荷で 1.9割増、マイワシは九州物がまとも 1.9割増、低調な漁が続くスルメイカは 2.5割減となった。ハマチは 2.7割減、入荷の最盛期を迎えるカツオは 0.8割減となった。平均価格では、マグロ類は、入荷の増加したマグロはやや値を上げたものの、メバチ(輸入)は変わらず、その他は全般に入荷減から高くなった。マアジは前年並、サバは 0.9割安、マイワシは入荷増もまだ品不足で 3.9割高、スルメイカは 2.5割高、ハマチは昨年の安値もあり 4.6割高、カツオも 2.2割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,240 t (対前年比 100.3%)
平均価格 1,843円 (" 188円高)

取扱数量では、カンパチが 1.5割減、ハマチも 0.9割減となったものの、アナゴの 1割増、マタイの 0.5割増など全体ではほぼ前年並となった。平均価格では、ハマチが 4.7割高、カンパチが 3.1割高、マタイが 0.6割高など全般に値を上げた。

☆貝類 取扱数量 4,870 t (対前年比 110.4%)
平均価格 872円 (" 16円安)

取扱数量では、サザエ、アオヤギなどが減少したものの、ホタテ貝、ハマグリ、シジミ、アサリなどが増加した。

☆冷凍魚 取扱数量 17,743 t (対前年比 102.4%)
平均価格 1,071円 (" 93円高)

取扱数量では、マグロ類は、メバチ、印度マグロとも 0.2割減となったものの、キワダの 3.6割増など、全体では 0.3割とやや増加した。イカ類は、スルメイカ(国内)

が生鮮物の不振から 6.8割増となったことから、全体では 1.4割増となった。サケ・マス類は依然低調で、シロサケが 4.5割減、ベニサケも 4.6割減少するなど、全体では 1.7割減となった。エビ類は 0.8割増、サバは 0.3割増、タコが 1.7割増、ギンタラも 1.4割増加した。平均価格では、マグロ類は生鮮物の減少などから、メバチが 1割高、キワダは 0.6割高、印度マグロの 0.3割高など、全般に高く全体で 1.2割高となった。イカ類は、スルメイカ（国内）が 1割安となったものの、全体では 1.3割高、サケ・マス類は、低調な取引が続く 1割安となった。エビ類は 0.8割高、サバは 5.6割高、ギンタラが 0.4割高、タコも 2.6割高となった。

☆加工品 取扱数量 24,709 t (対前年比 109.9%)
平均価格 794円 (" 39円高)

取扱数量では、塩蔵品は、スケコが 1.8割減となったものの、塩サケを中心に増加し、全体では 2.6割増となった。塩干品は、開干アジと開干サンマが 0.4割減少したものの、丸干イワシの 1.4割増などから、全体で 0.5割増、煮干製品は、シラス干の 7.8割増から、全体では 3.8割の増加となった。練製品は全般に増加し 1.1割増、素干品は 0.5割減、湯煮品は 0.8割の増加となった。平均価格では、塩蔵品は、入荷増から全般に値を下げ、全体で 0.8割安となった。塩干品は、丸干イワシ、開干アジ、シシャモの 1.3割高から、全体では 0.9割高、煮干製品は、シラス干の 1.3割高など、全体で 0.7割高、湯煮品も 1.7割高、練製品は 0.2割安となった。

5月

☆鮮魚 取扱数量 15,138 t (対前年比 91.6%)
平均価格 1,002円 (" 112円高)

取扱数量では、マグロ類では、マグロの国内物は近海巻き網漁が順調で 8.2割増、輸入物は 1.2割減、キワダは国内物が 1.2割減、輸入物も 3.1割減少した。マアジは 1.1割減、サバは産地水揚げが減少してきたこともあり 1.2割減、マイワシは 0.7割増、スルメイカは漁況が上向いたこともあり 0.9割増となった。ハマチは産地在池量が少なく 3.7割減、入荷の最盛期を迎えたカツオは 1.2割の減少となった。カレイ類は 1.8割増、イサキは 3.6割増となった。平均価格では、マグロ類は、マグロの国内物が 3.2割安、輸入物は前年並、キワダは入荷減から国内物 2割高、輸入物も 0.9割高となった。入荷の減少したマアジは 2.1割高、サバも 1.9割高、マイワシはマアジやサバの品薄も手伝い

4.1割高、スルメイカは 1.6割安となった。ハマチは前年低水準だったことから 7.2割高、カツオは入荷少なく 3.4割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,242 t (対前年比 93.8%)
平均価格 1,717円 (" 213円高)

取扱数量では、カンパチが 2.5割減、ハマチが 1.1割減、アナゴも 0.2割減少するなど主要品目が伸び悩んだ。平均価格では、入荷の減少もあり、ハマチが 7.1割高、カンパチは 5割高、マタイも 1.6割高となるなど、全体的に値を上げた。

☆貝類 取扱数量 4,618 t (対前年比 99.2%)
平均価格 851円 (" 4円安)

取扱数量では、アサリ、シジミ、ハマグリ、アカ貝などがやや減少したものの、全般に前年並となった。平均価格は、全般に値動きが少なく前年並となった。

☆冷凍魚 取扱数量 16,755 t (対前年比 100.7%)
平均価格 1,072円 (" 113円高)

取扱数量では、マグロ類は、主力のメバチが 1.4割減、印度マグロの 1.3割減など、全般に減少した。イカ類は、モンコウイカの 2割減も、スルメイカ（国内）の 1.8割増など、全体では 0.9割増となった。サケ・マス類は、在庫薄のベニサケが 4.5割減となったものの、全体では 1.5割増、エビ類が 0.9割増、カレイ類も 0.4割増、冷タコは 3割減となった。平均価格では、マグロ類は、入荷が減少したことから、メバチが 1.4割高、印度マグロの 0.5割高など、全体でも 1.7割高となった。イカ類は、スルメイカ（国内）が 1割安となったものの、全般に高く、全体で 2.2割高、サケ・マス類は 1割安、エビ類は、アカエビが 1.6割安となったものの、全体では 0.2割高となった。カレイ類は 1.4割高、タコも 3.6割高となった。

☆加工品 取扱数量 23,586 t (対前年比 104.5%)
平均価格 793円 (" 42円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが 2倍増となったほか、塩ベニサケ、塩ギンサケ、イクラ、スケコなどが増加し、全体では 0.8割増加となった。塩干品は、シシャモが 1.5割増となったものの、丸干イワシが 0.3割減、開干アジの 1割減など、全体では 0.2割減となった。煮干製品は、シラス干が 2.7倍と急増したことから、全体で 8.8割増、練製品と湯煮品はほぼ前年並となった。平均価格では、塩蔵品は、塩シロサケが 1.2割高となったものの、イクラの 1.5割安、酢スジコの 1.3割安など、全体では前年並となった。塩干品は、開干品が 1割程高くなったのを始

図 1-1 総取扱数量の動き

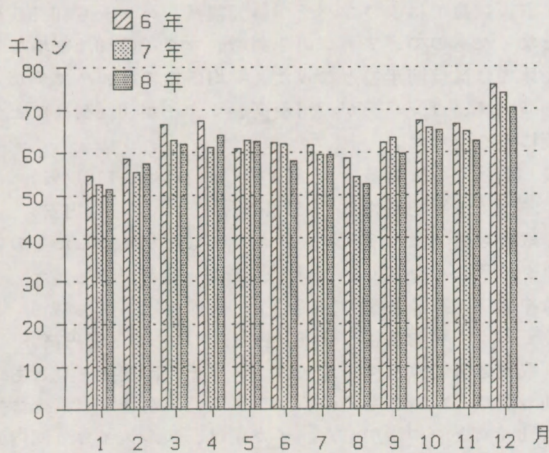


図 1-2 総平均価格の動き

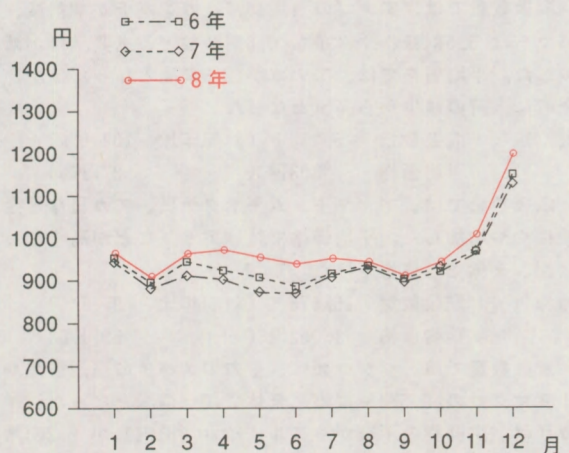


図 2-1 鮮魚取扱数量の動き

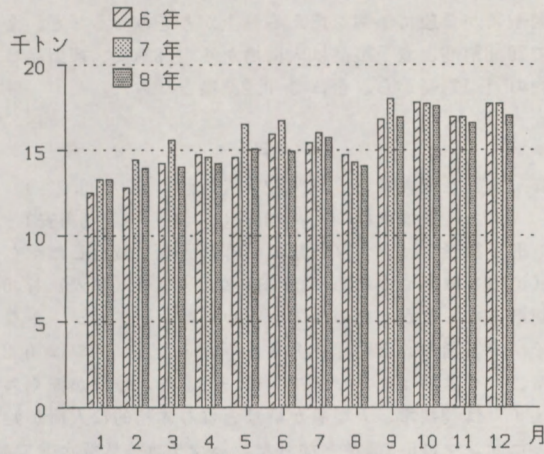
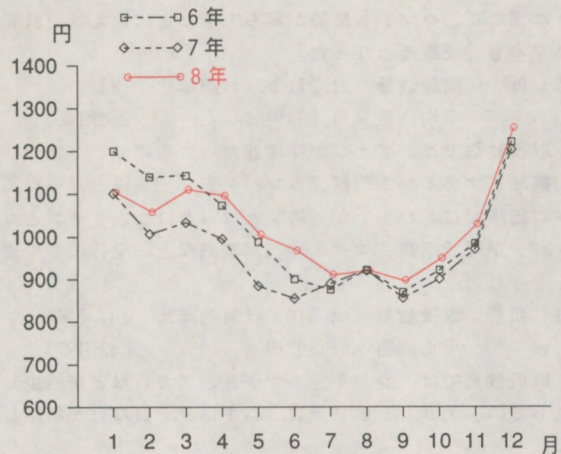


図 2-2 鮮魚平均価格の動き



め、全般にやや高く、全体でも 0.8割高、煮干製品は、シラス干が大量入荷から 3.5割安となるなど、全体では 1.7割安となった。練製品は前年並、湯煮品は、煮タコが 2.5割高となるなど、全体で 0.8割高となった。

6月

☆鮮魚 取扱数量 14,944 t (対前年比 89.4%)
平均価格 971円 (" 114円高)

取扱数量では、マグロ類は、マグロの国内物が近海巻き網漁に引き続き漁がみられ 2.6割増、輸入物は 4割減、メジは好漁で 3.6倍増、メバチは国内物が 6.4割減とほとんど入荷がなく、輸入物も 1.3割減となった。入荷が盛期のマアジは 0.9割減、サバは 0.6割増、マイワシは低調で 1.6割の減となった。北陸物主体のスルメイカは 2.3割増、昨年好調だったハマチは少ない入荷が続き 5.7割減、北上の運れるカツオは房州物主体で 1.6割減少した。マタイ(養殖)は 0.9割増、イサキは 3.1割減となった。平均価格では、マグロ類は、マグロの国内物が 0.2割高、輸入物は 0.2割安、入荷の多いメジは 1.9割安、量の少ないメバチは国内物が 7.4割高、輸入物も 0.8割高となった。マアジは 1.2割高、サバも 0.2割高、マイワシは品不足から 9.1割高となった。スルメイカは入荷が急増し 1.2割安、ハマチは品薄で 9.8割高、カツオも 5.2割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,147 t (対前年比 85.8%)
平均価格 1,846円 (" 347円高)

取扱数量では、カンパチが 3.2割減、ハマチは 2.5割減、アナゴが 1.3割減、マタイも 1.2割の減少となった。平均価格では、主力のアナゴ、マタイ、ハマチ、カンパチのいずれも値を上げ、全般に高値となった。

☆貝類 取扱数量 4,136 t (対前年比 93.5%)
平均価格 874円 (" 9円高)

取扱数量では、アオヤギ、トリ貝、ハマグリ、シジミ、アサリなどが減少した。平均価格は、入荷が減少したことから、やや高くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 15,127 t (対前年比 97.1%)
平均価格 1,084円 (" 132円高)

取扱数量では、マグロ類は、印度マグロが 1.8割減、メバチは 1.5割減、マグロも 1.4割減となるなど、全体でも 1.2割減となった。イカ類は、スルメイカ(SA)の 2.3倍増などから、全体ではやや増加した。サケ・マス類は、ベニサケが半減、シロサケも 0.6割減となったものの、ギンサケが倍増したことなどから、全体では 3.4割増となった。カレイ類は 1.8割減、エビ類も 1.5割減、サバは 1.3

割減となった。タコが 1.7割減、ギンタラは 3.6割増となった。平均価格では、入荷も減少したマグロ類は、マグロが 3.9割高、メバチが 2.1割高、印度マグロの 0.8割高など、全体でも 2.3割高となった。イカ類は 1割高、サケ・マス類は入荷が前年を大きく上回ったものの 0.5割安に止まった。カレイ類は 2.6割高、エビ類が 1.2割高、サバも 6.4割高、タコは 5割高、ギンタラも 2.4割高など全体に値を上げた。

☆加工品 取扱数量 21,551 t (対前年比 94.9%)
平均価格 750円 (" 15円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが 3.9倍増となったものの、塩シロサケの 1.7割減や、塩ベニサケの 1.1割減、スケコの 1.4割減などから、全体で 0.3割減少した。塩干品はシシャモが 2.5割増となったものの、開干アジの 1.4割減などから、全体では 0.3割減少した。煮干製品は、シラス干が 3割減、煮干イワシの 1割減などで、全体でも 2.1割減、練製品は、チクワ、カマボコ、揚物などの減少で、全体で 0.3割減少、湯煮品も 0.9割減となるなど、全般に減少傾向だった。平均価格では、塩蔵品は、塩サケが全般に安くなったことから、全体では 0.7割安、塩干品は入荷の減少から 0.6割安、煮干製品は、シラス干の 2割安など、全体でも 1.8割安となった。練製品は 0.4割安、湯煮品は、煮タコの 3.4割高などから、全体で 1.1割高となった。

7月

☆鮮魚 取扱数量 15,658 t (対前年比 97.6%)
平均価格 910円 (" 21円高)

取扱数量では、マグロ類は、マグロの国内物が 2.7割減、輸入物も 3.6割減、昨年大豊漁となったメジは 8.6割減、キワダも減となるなど全般に減少した。マアジは 0.7割増、サバは近海で比較的まとまった漁がみられ 1.2割増、マイワシは依然低調で 0.3割減少した。北海道主体のスルメイカは産地での豊漁もあり 3.7割増、新物の入荷が始まったサンマも 3.5割増となった。ハマチは低水準が続き 4.6割減、最需要期の終わりを迎えるカツオは 1.6割減となった。カレイ類は 1割増、マタイ(養殖)は前年並、カニ類が 1.7割増となった。平均価格では、マグロ類は、メバチ(国内)が 1.8割安となったほかは、入荷が減少したことから、マグロの国内物が 3.2割高、輸入物も 1.1割高、メジの 3倍高など、全般に高値となった。マアジは 0.2割安、サバも 0.4割安、マイワシは 7割高と高値が続き、スルメイカは入荷増から 2.9割安となった。昨年より早い出回りのサン

マは 9割高、ハマチも騰勢が落ちてきたとはいえ 6.7割高、カツオも 0.8割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,211 t (対前年比 92.4%)
平均価格 1,933円 (" 260円高)

取扱数量では、アナゴが昨年並だったものの、ハマチは 3割減、マタイが 1割減、カンパチも 0.9割減となった。平均価格では、ハマチが 2倍高となったほか、アナゴとカンパチが 2.3割高、マタイの 1.1割高など、全体にやや値を上げた。

☆貝類 取扱数量 4,310 t (対前年比 103.3%)
平均価格 890円 (" 42円安)

取扱数量では、シジミ、ハマグリ、アカ貝などが減少したものの、アサリ、ホタテ貝、ムキホタテ貝などが増加した。

☆冷凍魚 取扱数量 15,051 t (対前年比 100.0%)
平均価格 1,114円 (" 98円高)

取扱数量では、マグロ類は、主力のメバチが 1.7割減、在庫薄の続く印度マグロも 2.8割減となるなど、全般に減少し、全体で 1.3割減となった。イカ類は生鮮物が好調なこともあり全体で 0.4割減、サケ・マス類は、ベニサケが北米新物の搬入増などから 3.6割増となるなど、全体でも 3.8割増となった。エビ類は 1.2割減、カレイ類は 0.8割増、タコは前年並となった。平均価格では、マグロ類は、メバチが 2.5割高、印度マグロの 1.1割高など、入荷の減少から全体でも 2.5割高となった。イカ類は、スルメイカ(国内)が 1.5割安となったものの、モンコウイカが 1割高、ムキイカの 0.5割高など、全体で 1.9割高となった。

サケ・マス類は、入荷増のベニサケが 2.2割高となるなど、全体でも 0.7割高となった。エビ類は前年並、カレイ類は 2.3割高、高騰が続くタコは 5.4割高となった。

☆加工品 取扱数量 21,937 t (対前年比 101.4%)
平均価格 786円 (" 8円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが 3.2倍増となったものの、塩シロサケが 2.1割減、スジコの 3.4割減、イクラの 1.1割減など、全体では 0.6割の減少となった。塩干品は、シシャモが 1.1割増のほか、開干類が前年を上回るなど、全体では 0.8割増となった。煮干製品も好調で、煮干イワシが 5.7割増、シラス干も 2割増など、全体でも 1.9割増加した。練製品は揚物の 0.8割減から 0.2割減、焼物製品は 0.7割増となった。平均価格では、塩蔵品は、塩サケがやや高くなったものの、スジコやイクラなどが値下がりしたことから、全体で 0.2割安となった。塩干品は、

開干類が全般に 1割を超える値上がりを見せるなど、全体で 0.6割高、煮干製品は入荷増から 1.8割安、練製品は揚物の 1.1割高から、全体で 0.2割高となった。

8月

☆鮮魚 取扱数量 14,052 t (対前年比 98.2%)
平均価格 920円 (" 6円安)

取扱数量では、マグロ類は、昨年大幅に減少したマグロ(国内)はやや少なめだが 3倍増、メバチ(輸入)も 0.4割増となったが、その他のマグロ(輸入)、メジ、キワダ、メバチ(国内)と前年を大きく下回った。マアジは 0.2割増、サバは前年並、マイワシは 3.5割増、豊漁が続くスルメイカは 3割増、大型船が解禁となり本格的な入荷が始まったサンマは 0.3割増となった。ハマチは依然低水準で 4.2割減、再盛期を過ぎたカツオは 5.2割減となった。平均価格では、マグロ類では、マグロ(国内)が 1.1割高、昨年安値だったメジが 5割高、メバチ(国内)も 5.7割高となったが、その他は入荷減少も振るわず安値となった。マアジが 0.5割安、サバは 3割高、マイワシも 0.3割高、スルメイカは大量入荷から 2.5割安、サンマは 2.5割高と高値のシーズン入りとなった。ハマチは落ち着いてきたものの 5.6割高、カツオも品薄で 5.9割高となった。

☆活魚 取扱数量 996 t (対前年比 86.9%)
平均価格 1,905円 (" 238円高)

取扱数量では、アナゴが 0.3割とやや増加したものの、ハマチは 3.9割減、マタイが 1.2割減、カンパチも 1.2割減と全般に入荷が減少した。平均価格では、ハマチが 9.4割高、カンパチは 1.1割高、マタイが 1割高、アナゴも 0.5割高と主力品を中心に入荷減から値を上げた。

☆貝類 取扱数量 3,433 t (対前年比 97.7%)
平均価格 890円 (" 74円安)

取扱数量では、アサリ、ホタテ貝など増加したが、ハマグリ、シジミ、アカ貝などが減少した。平均価格では、アサリ、アカ貝などが安くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 13,738 t (対前年比 88.5%)
平均価格 1,096円 (" 89円高)

取扱数量では、マグロ類は、メバチと印度マグロが 3.8割減となるなど、全体では生鮮物同様前年を大きく下回り 3.6割の減少となった。イカ類は、モンコウイカが 4.3割増となったものの、スルメイカ(国内)が 0.9割減、ムキイカの 1.4割減など、全体では 1.9割減となった。サケ・マス類は、シロサケが 5.1割増、ベニサケの 3.8割増など、

図 3-1 貝類取扱数量の動き

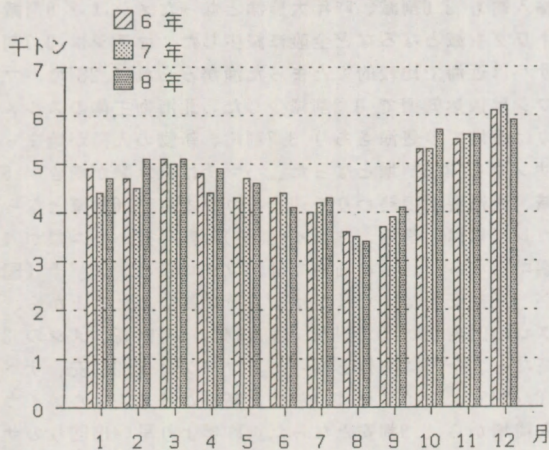


図 3-2 貝類平均価格の動き

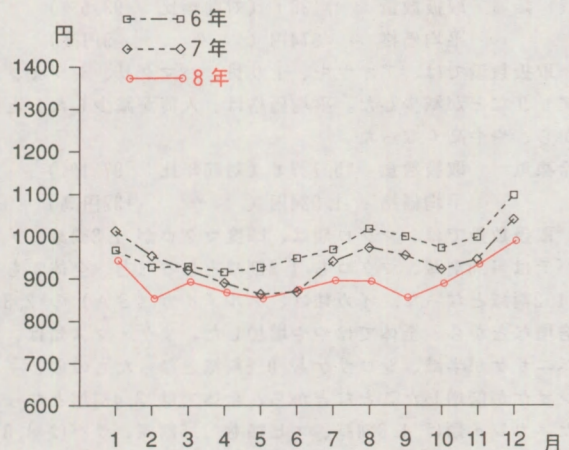


図4-1 冷凍魚取扱数量の動き

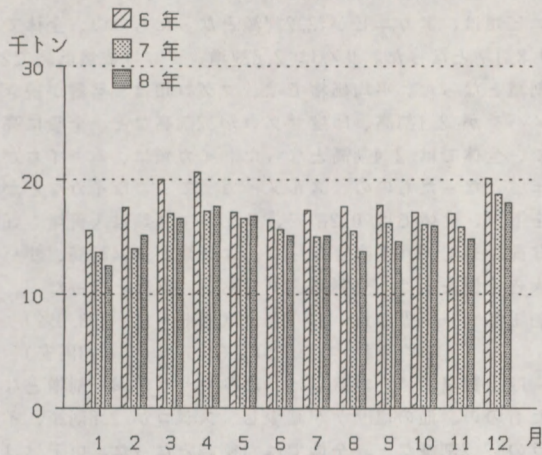
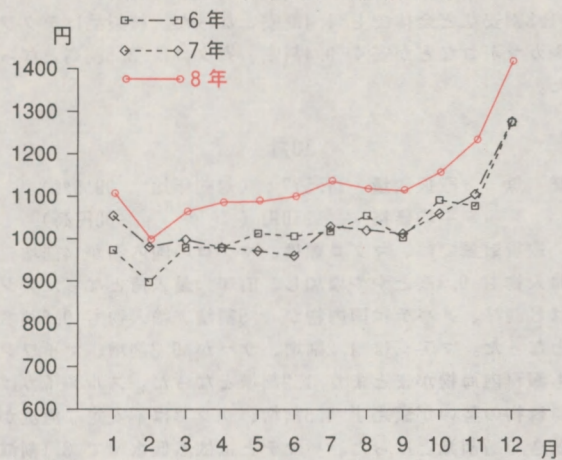


図4-2 冷凍魚平均価格の動き



全体でも 4.6割増となった。エビ類は、アカエビが 5.4割減となるなど、全体で 1.1割減、ギンタラ 0.4割増、サバも 4割増、タコは 3割の減少となった。平均価格では、マグロ類は、入荷が大幅に減少したことから、メバチが 2.5割高、印度マグロの 1割高など、全体でも 2.6割高となった。イカ類では、スルメイカ(国内)は生鮮物が出回ったことから 1.6割安となったものの、全体では 0.4割高となった。サケ・マス類は、ベニサケの 3.8割高など、全体で 2.3割高、エビ類は、アカエビが品薄から 2.2割高になるなど、全体でも 0.7割高となった。ギンタラは 2.4割高、サバも 6.9割高、タコは 5.2割高となった。

☆加工品 取扱数量 19,471 t (対前年比 103.3%)
平均価格 742円 (" 29円安)

取扱数量では、塩蔵品は、イクラやスケコなどの魚卵類が総じて低調だったものの、塩アキサケの 4.5倍増、塩ギンサケが 1.7割増など、全体では 0.5割増となった。塩干品は、シシャモの 3.7割増や開干品が好調なことから、全体で 1割増、煮干製品は、シラス干が 3割減となるなど、全体で 0.4割減となった。練製品は 1.2割増、湯煮品は、煮タコの 1.7割減など、全体で 1.1割減となった。平均価格では、塩蔵品は、イクラが 1.3割安、スジコの 0.4割安、塩アキサケの 1.4割安など、全体で 1.2割安となった。塩干品は全般に高値で 1.1割高、煮干製品は、煮干イワシの 1.2高や、シラス干の 0.9割安など、全体で 1.9割安となった。湯煮品は煮タコの 4.3割高などで 1.3割高、素干品が 0.5割安、練製品も 0.3割安となった。

9月

☆鮮魚 取扱数量 16,894 t (対前年比 93.9%)
平均価格 889円 (" 39円高)

取扱数量では、マグロ類は、マグロの国内物が 8.9割の増加を見せたものの、輸入物は 1.5割減、メジが 5.5割減、キワダやメバチも減少し、全般に低調な入荷となった。マアジは 0.4割増、サバも 1.6割増、マイワシが 0.5割増、青森物主体のスルメイカは好漁が続き 6.1割増、入荷の最盛期を迎えたサンマは中旬以降急激に漁獲が落ち込み 2.8割減となった。ハマチは入荷が上向いてきたものの 3.8割減、南下の始まるカツオは 5.4割減となった。平均価格では、マグロ類は、メバチ(輸入)が 0.9割安、マグロ(国内)が前年並となったものの、ほかは入荷の減少から全般に値を上げた。マアジは 1.4割安、サバは前年並、マイワシが 1割高となった。スルメイカは潤沢な出回りで 4.1割安、一方、サンマは品薄状態で小型ながら 8.4割高となっ

た。ハマチは 4割高、カツオも 9.1割高となった。
☆活魚 取扱数量 1,019 t (対前年比 92.5%)
平均価格 1,918円 (" 24円高)

取扱数量では、マタイが 0.2割増となったものの、アナゴが前年並、ハマチは 3.1割減、カンパチも 0.6割減となった。平均価格では、アナゴが 1割安、マタイが 0.7割安となったものの、カンパチが前年並、ハマチは 6.1割高などとなった。

☆貝類 取扱数量 4,106 t (対前年比 105.2%)
平均価格 849円 (" 93円安)

取扱数量では、アサリ、ホタテ貝、サザエ、ムキホタテ貝などが増加した。平均価格は、入荷増から全般にやや安くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 14,636 t (対前年比 90.2%)
平均価格 1,091円 (" 94円高)

取扱数量では、マグロ類は、印度マグロの 2.7割減やメバチの 2.5割減など、全般に入荷が減少し、全体で 2.4割の減少となった。イカ類は、モンコウイカが 5.2割増となったものの、ムキイカの 2.9割減など、全体では 0.8割減となった。サケ・マス類は、シロサケが 4.1割減、ベニサケも 1.2割減少し、全体では 0.4割減となった。エビ類は、アカエビが 4.3割減と大きく落ち込み、全体で 1.3割減、カレイ類は 7割増、サバは 1.7割減となった。サンマは生鮮物の不振から 2.6倍増、タコは 4.3割減となった。平均価格では、マグロ類は、品薄状態で、メバチや印度マグロの 2.1割高を始め、全体でも 2.5割高となった。イカ類はモンコウイカが 1.9割安、スルメイカ(国内)も 1.8割安など、全体で 0.9割安、サケ・マス類は、ベニサケの 1.3割高で、全体も 0.7割高となった。エビ類は 0.4割高、ギンタラが 2.7割高、サバも 8.5割高、サンマが 4.5割高、タコの 4.8割高など、おおむね高値の傾向となった。

☆加工品 取扱数量 22,109 t (対前年比 95.4%)
平均価格 744円 (" 26円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩シロサケが 2.1割増となったものの、その他塩サケや魚卵類が減少したことから、全体で 1.2割減少した。塩干品は、シシャモが 3.3割増、開干品がやや前年を上回ったものの、全体では前年並となった。煮干製品は、煮干イワシの 3.5割増から、全体で 0.6割増、練製品は前年並、煮タコは 1.1割の減少となった。平均価格では、塩蔵品は、塩ギンサケが 3.2割高となったものの、塩アキサケが 0.8割安、イクラも 1.6割安、スケコの 0.6割安など、全体で 0.7割安となった。塩干品は開干品を中心に値を上げ 0.9割高、煮干製品は、シラス干の

1.8割安など全体でも 1.4割安となった。練製品はチクワやカマボコなどが安く 0.4割安、煮タコは 3.5割高となった。

10月

☆鮮魚 取扱数量 17,577 t (対前年比 99.5%)
平均価格 950円 (" 50円高)

取扱数量では、マグロ類は、マグロの国内物が 4割増、輸入物も 0.3割とやや増加し、前年大量入荷となったメジは 8割減、メバチは国内物が 0.9割増、輸入物も 0.5割増となった。マアジは 1.2割増、サバが 0.3割増、マイワシも瀬戸内海物がまとまり 1.2割増となった。スルメイカは青森物の勢いが衰えず 4.5割増、サンマは不安定な漁況が続く 1.7割減となった。ハマチとは依然低水準で 3.1割減、カツオも低調で 4.5割減となった。平均価格では、マグロ類は、マグロの国内物が入荷増から 1.3割安、逆に輸入物は 0.5割高、その他ではキワダ(輸入)やメバチが値を下げた。マアジは 1.1割安、サバが 0.5割高、マイワシは入荷増も高値が続く 4.2割高となった。スルメイカは大量入荷から 3.5割安、サンマは最盛期を過ぎたとはいえ 2倍高となった。ハマチが 3.4割高、カツオも少なく 9.2割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,134 t (対前年比 100.2%)
平均価格 1,800円 (" 48円高)

取扱数量では、マタイは 1.7割増、アナゴが 0.7割増、カンパチもやや増加したものの、ハマチが 2.8割減などとなった。平均価格では、ハマチが 4.3割高、アナゴも 0.7割高、カンパチが 1.4割安となり、マタイも 0.7割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,661 t (対前年比 106.0%)
平均価格 880円 (" 29円安)

入荷数量では、ムキカキ、ハマグリなどが減少したが、ホタテ貝、アサリ、シジミなどが増加した。平均価格は、入荷の増加からやや安くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 15,977 t (対前年比 99.2%)
平均価格 1,134円 (" 91円高)

取扱数量では、マグロ類は、インドマグロが 2.3割減、主力のメバチも 1.6割減となるなど、全体でも 1.4割減となった。イカ類は、スルメイカの国内物が 3.5割増となったものの、モンコウイカの 5.3割減などから、全体で 2.2割減となった。サケ・マス類は、シロサケが 5.3割増、ベニサケも 4.1割増加するなど、全体でも 3.9割増となった。

エビ類は、アカエビが 2.2割減となったものの、全体では 0.8割増となった。サバは 2.6割増、タコは依然低調で 2.4割減となった。平均価格では、マグロ類は、品薄が続く、メバチが 2.1割高、インドマグロが 2割高など、全般に高値で、全体では 2.4割高となった。イカ類は、ムキイカが前年並となったものの、スルメイカ、モンコウイカなどが値を下げ、全体では 0.2割安、サケ・マス類は入荷増も好調な荷動きで 0.6割高となった。エビ類が 0.4割高、サバは大きく値を上げ 7.9割高、タコも 1.6割高となった。

☆加工品 取扱数量 24,036 t (対前年比 98.0%)
平均価格 765円 (" 23円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩シロサケが 4.5割増となったものの、他の塩サケが減少し、スジコが 2.6割減、イクラの 2.2割減など、全体では 1割減となった。塩干品は丸干イワシや開干品が好調で前年を上回り 0.8割増、煮干製品は前年並となった。練製品は、揚物がやや減少し、全体で 0.4割減となった。平均価格では、塩蔵品は、塩アキサケが 2.5割安、スジコの 0.6割安、イクラも 1.9割安となるなど入荷減も振るわず、全体では 0.8割安となった。塩干品は全般に値を上げ 0.8割高、煮干製品は、煮干イワシが 1.8割安、シラス干の 1.2割安など、全体でも 1.6割安となった。練製品は揚物の 0.7割高から全体で 0.6割高、素干品は 1.3割安、湯煮品は 1.7割高となった。

11月

☆鮮魚 取扱数量 16,551 t (対前年比 98.1%)
平均価格 1,037円 (" 51円高)

取扱数量では、マグロ類は、マグロの国内物が 8.4割、輸入物が 3.6割とともに増加したものの、昨年豊漁だったメジは 8.5倍減も例年並、メバチは、国内物が前年並、輸入物は 0.7割増となった。マアジは 1.6割増と高水準が続く、サバも産地の好漁から 2.6割増、マイワシは 1割増、スルメイカは 3.1割増、終漁となったサンマは 2.6割減となった。増加の時期を迎えるハマチも 2.2割減、カツオも 4.4割減となった。平均価格では、マグロ類は、入荷の増えたマグロは、国内物が 1.9割安、輸入物も 0.6割安、メジは昨年の反動から 2.8倍高、メバチは国内・輸入ともほぼ前年並となった。マアジが 0.9割安、サバも 0.9割安、マイワシは 0.7割高、スルメイカは依然低水準で 2.7割安、サンマは 2.2倍高と最後まで高値推移となった。ハマチは 3.4割高、カツオも 4.1割高、クラ類は 0.9割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,174 t (対前年比 100.4%)

図5-1 加工品取扱数量の動き

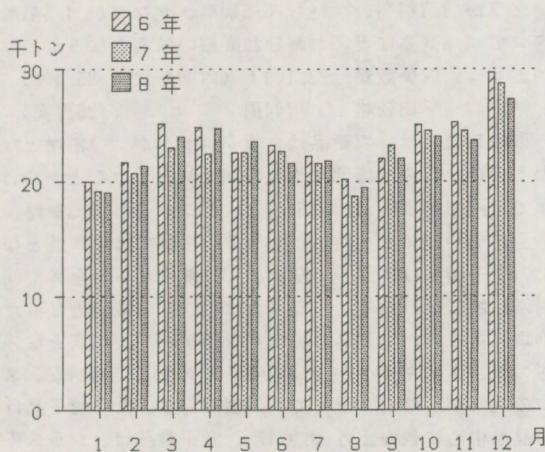
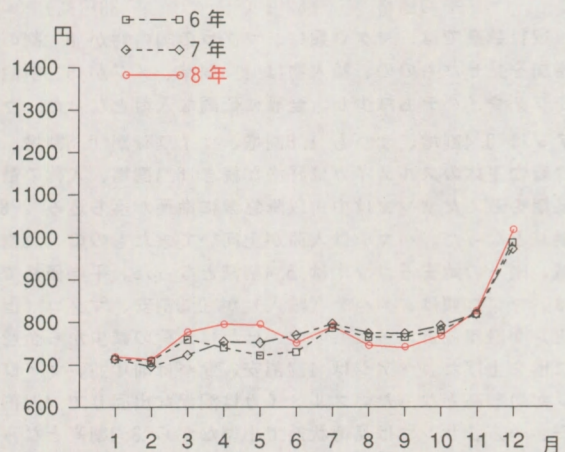


図5-2 加工品平均価格の動き



平均価格 1,703円 (" 16円高)

取扱数量では、マタイが 1.8割増、カンパチが 1.3割増となり、ハマチは 2.5割減、アナゴは 0.3割減少した。平均価格では、ハマチが 3.5割高となったが、カンパチ・マタイなどが安値となった。

☆貝類 取扱数量 5,613 t (対前年比 99.7%)
平均価格 925円 (" 1円高)

シジミ、ホタテ貝などが増加したが、ハマグリ、ムキカキ、アオヤギなどが減少した。平均価格は、アオヤギ、ムキカキなどが高くなったものの、全体では前年並となった。

☆冷凍魚 取扱数量 14,847 t (対前年比 93.2%)
平均価格 1,215円 (" 128円高)

取扱数量では、マグロ類は、キワダが 1.8割減となったが、メバチが 0.9割減、印度マグロの 1割減など、全体で 0.5割減となった。イカ類は、スルメイカ(国内)が 4.9割増、モンコウイカが 5.7割増となったものの、全体では 0.2割減となった。サケ・マス類は、ベニサケの 2.6割減も、シロサケが 4.5割増となるなど、全体で 2.1割増となった。エビ類は 1.3割減、ギンタラも 0.9割減となった。平均価格では、マグロ類は、キワダが 1.8割高、メバチは 2割高、印度マグロの 1.1割高など全般に高値で、全体でも 2.1割高となった。イカ類は、スルメイカ(国内)が 1.8割安、モンコウイカの 2.9割安など、全体で 1.6割安、サケ・マス類は、ベニサケの 3.7割高などで 1割高となった。エビ類は 0.7割高、ギンタラが 3割高、タコも 1.9割高となった。

☆加工品 取扱数量 23,663 t (対前年比 96.6%)
平均価格 820円 (" 10円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが 1.8割増となったものの、イクラが 1.3割減、スケコの 1.8割減など、全体で 0.3割減、塩干品は、シシャモが 4.4割増、開干アジの 0.6割増、丸干イワシも 1.2割増で、全体も 0.7割増となった。煮干製品は 0.8割減、素干品も 1割減、練製品は 0.7割減、湯煮品も 1割減となった。平均価格では、塩蔵品は、イクラは 1.1割安、スジコが 0.8割安となったものの、全体では前年並、塩干品は開干品が全般に高く全体で 0.5割高となった。煮干製品は 0.6割安、練製品は、揚物の 0.7割高から、全体で 0.4割高、湯煮品も 1.6割高となった。

12月

☆鮮魚 取扱数量 16,959 t (対前年比 96.0%)
平均価格 1,250円 (" 47円高)

取扱数量では、マグロ類は、マグロの国内物が入荷多く 4.5割増、輸入物も 1.1割増、メジは引き続き 6.2割の減少、メバチは国内・輸入とも増加した。マアジは今月も好調で 1.9割増、サバも産地での好漁が続き 1割増加、マイワシは愛媛物がまとまったものの 0.3割減となった。ハマチは最大の需要期を迎えたが産地在池量が少なく 1.5割減、タラ類は前年並、カニ類は 1.1割減となった。平均価格では、マグロ類は、メバチが国内・輸入とも入荷増から 1割程値を下げたものの、メジが 3.9割高となったほか、マグロ(輸入)やキワダも高くなった。マアジは 1.8割安、サバは 0.4割高、マイワシも依然高値で 1.1割高となった。スルメイカは 2.6割安、ハマチは 3.4割高、タラ類は 0.5割安となった。

☆活魚 取扱数量 1,430 t (対前年比 97.6%)
平均価格 1,796円 (" 110円高)

取扱数量では、カンパチやマタイが増加したものの、ア

ナゴは 0.9割減、ハマチが 2.4割減となった。平均価格では、活アナゴが 1.4割高、ハマチも 3.5割高となるなど、全体で 0.7割高となった。

☆貝類 取扱数量 5,913 t (対前年比 95.2%)
平均価格 1,017円 (" 39円高)

取扱数量では、ホタテ貝が 2.1割増となったが、カキ、ハマグリ、ムキカキなどが減少した。平均価格では、入荷減少から全般にやや高くなった。

☆冷凍魚 取扱数量 17,994 t (対前年比 95.9%)
平均価格 1,384円 (" 140円高)

取扱数量では、マグロ類は、メバチが 0.4割減、印度マグロが 0.6割増など増減区々ながら、全体では前年並となった。イカ類は、モンコウイカの 0.7割減も、スルメイカ(国内)が 4.6割増加するなど、全体で 0.7割増、サケ・マス類は、シロサケが 6.3割減、ベニサケの 5.4割減など低調で全体でも 0.9割減となった。エビ類は 0.5割減、カニが 1.5割減、タコも 1.4割減となった。平均価格では、マグロ類は全般に高値で 1.3割高、イカ類は、スルメイカ(国内)やモンコウイカが 1割安となるなど、全体で 0.4割安、サケ・マス類は、入荷が少ないことから全般に高く 3.1割高となった。エビ類は 0.2割高、カニ類も 0.4割高、タコが 1.5割高くなった。

☆加工品 取扱数量 27,326 t (対前年比 95.1%)
平均価格 1,011円 (" 35円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩ベニサケと塩ギンサケがやや増加したものの、塩アキサケの 2.1割減、塩シロサケが 2.5割減、スジコな 2割減など、全体では 1割の減少となった。塩干品は、開干アジの 0.5割増、シシャモが 3.3割増となるなど、全体でも 0.2割増、煮干製品は煮干イワシの 2.6割減など 1.1割減となった。素干品は 0.7割増、練製品は 0.8割減となった。平均価格では、塩蔵品は、イクラ・スケコ・メンタイコなどが値を下げたものの、塩サケが全般に高く、全体で 0.6割高となった。塩干品は、開干品がサバの 3.4割高を始め全般にやや高く、全体では 0.6割高、煮干製品はシラス干の 1割安などで 0.7割安となった。素干品は前年並、練製品は 0.5割高、湯煮品も 1.4割高となった。

2. 主要品目の取扱高

(1) マグロ類

生鮮マグロ類の取扱は、数量が 1.8割減となり、金額も 0.4割減となったことから、平均価格は昨年安値だったこともあり 237円高となった。品目別に見ると、マグロの国内物は前年の不振から例年の水準に戻し 2.1割増の 93円高、一方、輸入物は 1.6割減の 208円高となった。昨年記録的な豊漁となったメジは 6.7割減の 520円高となったものの例年並、キワダも、国内物が 2割減で 132円高、輸入物も 2.7割減で 69円高と取扱の減少から値を上げた。メバチは、国内物は 1.4割減の 271円高となったものの、輸入物が順調な入荷で 0.1割増の 32円安となった。

冷凍マグロ類の取扱量は、主力のメバチが 1.4割減の 171円高となり、また、印度マグロも 1割減で 173円高になるなど、全般に入荷減や生鮮物の減少から単価高となり、全体でも 1割減の 249円高となった。

(2) マアジ

取扱数量は、前半がやや前年を下回る程度だったものの、南下が始まる頃から漁が不振となり半減近くに落ち込み、年間では 2.6割の減少となった。平均価格は、取扱の減少から 222円高の 715円となった。

(3) 養殖ハマチ

春先までは昨年から引き続き潤沢な入荷であったが、その後、取扱量が激減し、価格も高騰していった。取扱数量は2.6割減少し、平均価格は、5月以降1,000円台を付けるなど、238円高の921円となった。

(4) マアジ

取扱数量は、前半はやや前年を下回ったものの夏場以降入荷がまとまり0.2割増となった。平均価格は549円の2円高とはほぼ前年並となった。

(5) マイワシ

取扱数量は、0.5割増と前年を上回ったものの、年間を通して高値で推移し、平均価格は445円で、108円高となった。

(6) スルメイカ

生鮮物は、春先までは水揚げの不振から入荷少なく高値が続いたが、その後は逆に豊漁となった。そのため、取扱数量は2.6割増、平均価格は393円の121円安となった。

冷凍物も順調な入荷で、全体の取扱数量は1.2割増加し、平均価格は41円安の325円となった。

(7) サバ

生鮮品は、春以降、昨年を上回る順調な入荷が続き、0.4割増となった。平均価格は545円で、24円高となった。

冷凍物も好調で1.2割増加し、平均価格は118円高の318円となった。

(8) サンマ

夏場から始まった漁は、好調な滑り出しとなったものの、まもなく一転して漁況は急激に落ち込み、低調のまま終漁を迎えた。このため、取扱数量は1.6割減となり、平均価格は小型中心にもかかわらず245円高の614円となった。

(9) サケ・マス類

生鮮サケ・マス類は、輸入物の0.2割増も、ギンサケが3.2割減、シロサケもやや前年を下回り、全体でも0.2割減となった。平均価格では、ギンサケが120円高、シロサケが12円安、輸入物も4円安となり、全体では4円高となった。

冷凍サケ・マス類は、冷ペニサケが2.6割減、冷シロサケも1.5割の減少となったが、冷ギンサケの1.7割増など、全体では0.4割増となった。平均価格では、冷シロサケが65円高、冷ペニサケも56円高、冷ギンサケは26円安で、全体では7円安となった。

(10) エビ類

生鮮エビ類は、アカエビが0.3割増、マキエビが0.7割増であったものの、イセエビ（輸入）が1.3割減、ムキエビが0.6割減になるなど、全体でも0.4割減となった。平均価格では、イセエビ（輸入）は363円高となったものの、マキエビが931円安、アカエビは131円安、クルマエビ（国内）も333円安となるなど、全体では8円安となった。

冷凍エビ類は、ムキエビが3.2割増、インドネシア物が1.6割増となったが、フィリピン物が3.2割減、インド物が0.6割減、アカエビの1.2割減など、全体では0.2割減となった。平均価格では、フィリピン物とインド物がともに167円高、インドネシア物が60円高、アカエビの24円高など、全体でも56円高となった。

(11) 加工品

塩サケは、塩アキサケが1.3割増で48円安、塩シロサケも0.7割増で31円安となった。魚卵では、スジコが1.7割減の144円安、イクラが0.2割増で538円安となった。開干アジは0.4割減少して49円高、シラス干は0.9割の増加で130円安となった。蒲焼ウナギは1.7割増で41円安。干

スルメは減少し、価格は国内物が91円安、SA物が365円高となった。練製品は、カマボコやナルトなどが前年並となったものの、全体では0.2割減で4円高、煮タコは0.6割減で276円高となった。

3. 市場別取扱高

(1) 築地市場

総取扱高は、628,567tで前年比98%と減少(11,725t減)し、総取扱金額は、610,378百万円で前年比102%と増加(14,185百万円増)した。類別を見ると、鮮魚の取扱数量は、151,274t(9,908t減)で前年比94%となり、取扱金額は、161,217百万円(153百万円増)で前年並となった。活魚の取扱数量は、12,261t(679t減)で前年比95%と減少し、取扱金額は、22,449百万円(740百万円増)で3%の増となった。冷凍魚の取扱数量は、164,148t(4,465t減)で前年比97%となり、取扱金額は185,864百万円(10,445百万円増)で前年比106%となった。加工品の取扱数量は、240,987t(1,939t増)で前年比101%となり、取扱金額は、188,286百万円(3,080百万円増)で前年比102%となった。貝類の取扱数量は、49,895t(1,397t増)で前年比103%となり、取扱金額は、45,532百万円(272百万円減)で前年比99%となった。淡水魚の取扱数量は、3,392t(205t減)で前年比94%となり、取扱金額は、4,494百万円(103百万円減)で前年比98%と減少した。海藻類の取扱数量は、6,611t(198t増)で前年比103%となり、取扱金額は、2,536百万円(142百万円増)で前年比106%となった。

(2) 足立市場

総取扱高は、57,272tで前年比98%と減少(1,184t減)し、総取扱金額は、49,747百万円で、前年比102%と増加(912百万円増)した。類別を見ると、鮮魚の取扱数量は、14,518t(307t減)で前年比98%となり、取扱金額は、12,229百万円(237百万円増)で前年比102%となった。活魚の取扱数量は、670t(153t減)で前年比81%と大きく減少し、取扱金額は、1,049百万円(21百万円減)で前年比98%となった。冷凍魚の取扱数量は、12,468t(540t減)で前年比96%となり、取扱金額は、12,303百万円(484百万円増)で前年比104%となった。加工品の取扱数量は、22,811t(221t減)で前年比99%となり、取扱金額は、19,056百万円(290百万円増)で前年比102%となった。貝類の取扱数量は、5,605t(67t増)で前年比101%となり、取扱金額は、4,295百万円(69百万円減)で前年比98%となった。淡水魚の取扱数量は、435t(1t増)で前年と変わらず、取扱金額は、486百万円(4百万円増)で前年比101%となった。海藻類の取扱数量は765t(30t減)で前年比96%となり、取扱金額は、328百万円(15百万円減)で前年比96%となった。

(3) 大田市場

総取扱高は、39,786tで前年比101%と増加(298t増)し、総取扱金額は、36,817百万円で前年比105%と増加(1,672百万円増)した。類別を見ると、鮮魚の取扱数量は、17,346t(1,582t増)で前年比110%となり、取扱金額は14,213百万円(1,858百万円増)で前年比115%となった。活魚の取扱数量は、1,064t(178t増)で前年比120%となり、取扱金額は、1,692百万円(310百万円増)で前年比122%と大幅に増加した。冷凍魚の取扱数量は、9,395t(565t減)で前年比94%となり、取扱金額

は、10,027百万円（293百万円増）で前年比103%となった。加工品の取扱数量は、9,107t（994t減）で前年比90%となり、取扱金額は、8,251百万円（825百万円減）で前年比91%となった。貝類の取扱数量は、2,132t（18t増）で前年比101%となり、取扱金額は、2,020百万円（47百万円増）で前年比102%となった。淡水魚の取扱数量は、358t（85t増）で前年比131%となり、取扱金額は、406百万円（29百万円増）で前年比108%となった。海藻類の取扱数量は、385t（5t減）で前年比99%となり、取扱金額は、208百万円（41百万円減）で前年比84%となった。

4. 卸売業者別取扱高

(1) 築地市場

① 大都魚類(株)

総取扱数量は、124,965tで、前年比95%と減少し、総取扱金額は、122,460百万円で、前年比102%と増加した。類別には、数量では、鮮魚は10%減少（3,140t減）、貝類は9%増加（1,241t増）、冷凍魚は7%減少（3,377t減）、加工品はやや減少した。金額では、鮮魚は3%減少（850百万円減）、活魚は4%増加（197百万円増）、冷凍魚は5%増加（2,444百万円増）、加工品も2%増加（417百万円増）となった。

② 中央魚類(株)

総取扱数量は、131,539tで、前年から僅かに減少したものの、総取扱金額は、147,485百万円で、前年比103%と増加し、2年連続で数量・金額ともトップとなった。類別には、数量では、鮮魚が5%減少（1,901t減）、貝類は3%増加（384t増）、冷凍魚が前年並、加工品は5%増加（1,327t増）となった。金額では、鮮魚はやや前年を上回り、貝類は4%増加（396百万円増）、冷凍魚は6%増加（3,217百万円増）、加工品も2%増加（451百万円増）となった。

③ 東都水産(株)

総取扱数量は、117,862tで、前年比97%と減少し、総取扱金額は、128,527百万円で、前年比103%と増加した。類別には、数量では、鮮魚は7%減少（2,379t減）、活魚は4%増加（92t増）、冷凍魚が3%減少（1,079t減）、加工品は僅かに増加した。金額では、鮮魚は2%増加（639t増）、活魚も11%増加（431t増）、冷凍魚は5%増加（2,055百万円増）、加工品が3%増加（909百万円増）となった。

④ 築地魚市場(株)

総取扱数量は、117,116tで、前年比99%と減少し、総取扱金額は、104,519百万円で、前年比102%と増加した。類別には、数量では、鮮魚が4%減少（1,361t減）、貝類は7%増加（565t増）、冷凍魚は3%減少（706t減）、加工品は前年並となった。金額では、鮮魚が前年並となったものの、貝類は4%増加（295百万円増）、冷凍魚が5%増加（1,179百万円増）、加工品も3%増加（844百万円増）となった。

⑤ 第一水産(株)

総取扱数量は、50,759tで、前年比98%と減少し、総取扱金額は、48,471百万円で、前年比101%と増加した。類別には、数量では、鮮魚は7%減少（1,128t減）、貝類が9%減少（847t減）、冷凍魚は9%増加（734t増）、加工品も2%増加（338t増）となった。金額では、鮮魚は前年と変わらず、貝類は7%減少（572百万円減）、冷凍魚は19%増加（1,549百万円増）、加工品は3%減少

（389百万円減）となった。

⑥ 丸千代田水産(株)

総取扱数量は、72,776tで、前年より僅かに増加し、総取扱金額も、46,225百万円で、前年比103%と増加した。加工品の取扱としては、数量・金額ともに本年もトップとなった。類別には、数量では、海藻類が4%減少（70t減）し、加工品は前年並となった。金額では、海藻類は11%増加（59百万円増）となり、加工品も3%増加（1,199百万円増）となった。

⑦ 総合食品(株)

総取扱数量は、13,550tで、前年比98%と減少し、総取扱金額は、12,691百万円で、前年比97%と減少した。類別には、数量では、海藻類は17%減少（7t減）し、加工品も前年から僅かに減少した。金額では、海藻類は7%増加（3百万円増）し、加工品は3%減少（349百万円減）となった。

(2) 足立市場

① 東京北魚(株)

総取扱数量は、22,021tで、ほぼ前年と変わらず、総取扱金額は、18,069百万円で、前年比104%と増加した。類別には、数量では、鮮魚は2%減少（70t減）、貝類は5%増加（108t増）、冷凍魚と加工品は僅かに減少となった。金額では、鮮魚は2%増加（66百万円増）、活魚は20%増加（56百万円増）、冷凍魚が10%増加（387百万円増）、加工品もやや上回った

② 大都魚類(株)千住支社

総取扱数量は、18,985tで、前年比97%と減少したが、総取扱金額は、16,334百万円で、前年比102%と増加した。類別には、数量では、鮮魚は4%減少（213t減）、活魚は20%減少（44t減）、冷凍魚は2%減少（78t減）、加工品も3%減少（220t減）となった。金額では、鮮魚は前年をやや上回り、活魚は5%減少（15百万円減）、冷凍魚が9%増加（329百万円増）、加工品も2%増加（94百万円増）した。

③ 中央魚類(株)千住支社

総取扱数量は、16,265tで、前年比97%と減少し、総取扱金額は、15,344百万円で、前年比99%と減少した。類別には、数量では、鮮魚と貝類は前年と変わらず、活魚は29%減少（115t減）、冷凍魚も10%減少（406t減）、加工品は前年並となった。金額では、鮮魚は3%増加（111百万円増）、活魚は13%減少（62百万円減）、冷凍魚も5%減少（231百万円減）、加工品は2%増加（84百万円増）となった。

(3) 大田市場

① 東京大田魚市場(株)

総取扱数量は、21,009tで、前年比97%と減少し、総取扱金額は、20,704百万円で、前年比103%と増加した。類別には、数量では、鮮魚は2%減少（172t減）、貝類は13%増加（140t増）、冷凍魚は5%減少（323t減）、加工品も8%減少（397t減）となった。金額では、鮮魚は7%増加（557百万円増）、貝類も6%増加（73百万円増）、冷凍魚は2%増加（138百万円増）、冷凍魚は4%減少（207百万円減）となった。

② 大都魚類(株)大田支社（旧大田合水の取扱を含む）

総取扱数量は、18,777tで、前年比106%と増加し、総取扱金額は、16,113百万円で、前年比107%と増加した。類別には、数量では、鮮魚は26%増加（1,754t増）、活魚も22%増加（167t増）、冷凍魚は6%減少（242t減）、加工品も12%減少（597t減）となった。金額では、鮮魚

は27%増加（1,301百万円増）、活魚が24%増加（278百万円増）、冷凍魚も4%増加（154百万円増）、加工品は15%減少（618百万円減）となった。

(4) 買付比率

全体の買付比率は、数量では、49.3%と前年を1.7ポイント上回り、金額でも、48.1%と前年を0.8ポイント上回った。市場別に見ると、築地市場の買付比率は、数量では、49.3%と前年を1.9ポイント上回り、金額では、47.1%と前年を0.9ポイント上回った。足立市場の買付比率は、数量では、44.5%と、前年を0.9ポイント上回り、金額では、50.6%と前年を0.7ポイント上回った。大田市場の買付比率は、数量では、57.0%と前年を0.9ポイント下回り、金額では、60.8%と前年を1.4%下回った。

卸売業者別に見ると、大都魚類は、数量では、47.4%と前年を0.9ポイント上回り、金額では、44.4%と前年を0.1ポイント上回った。中央魚類は、数量では、48.5%と前年を2.5ポイント上回り、金額では、46.9%と前年を0.6ポイント上回った。東都水産は、数量では、47.3%と前年を1.1ポイント上回り、金額では、45.1%と前年を1.2%上回った。築地魚市場は、数量では、38.3%と前年を3.5ポイント上回り、金額では、36.8%と前年を3.3ポイント上回った。第一水産は、数量では、37.6%と前年を1.5ポイント上回り、金額では、41.6%と前年を0.3ポイント下回った。丸千代田水産は、数量では、83.3%で前年を0.5ポイント上回り、金額では、85.6%と前年を0.6ポイント下回った。総合食品は、数量では、46.4%と前年を2.2ポイント上回り、金額では、63.1%と前年を0.1ポイント上回った。

東京北魚は、数量では、43.5%で前年と変わらず、金額では、55.0%と前年を0.5ポイント上回った。大都魚類千住支社は、数量では、44.9%と前年を0.6ポイント上回り、金額では、47.8%と前年を0.8ポイント上回った。中央魚類千住支社は、数量では、45.3%と前年を2.2ポイント上回り、金額では、48.6%と前年を0.9ポイント上回った。

東京大田魚市場は、数量では、61.4%と前年を0.7ポイント上回り、金額では、65.9%と前年を0.2ポイント下回った。大都魚類大田支社は、数量では、52.1%と前年を2.3ポイント下回り、金額では、54.3%と前年を2.7ポイント下回った。

これも、東京が前年に続き第1位となった。2位千葉・3位北海道・4位静岡、5位宮城・6位福島・7位愛知・8位茨城・9位神奈川・10位兵庫となった。

5. 出荷地別取扱高

(1) 総取扱高

都道府県別の取扱高数量のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位千葉・4位北海道・5位宮城・6位青森・7位愛知・8位三重・9位神奈川・10位福島で、前年の4位と5位が入れ替わり、三重が8位に下がった。取扱高金額のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位北海道・4位千葉・5位宮城・6位神奈川・7位愛知・8位青森・9位三重・10位大阪で、愛知が前年の10位から7位に上がっている。

(2) 鮮魚取扱高

東京が1位、以下2位千葉・3位宮城・4位宮城・5位青森・6位愛媛まで前年と変わらず、7位静岡・8位三重・9位長崎・10位福岡となり、7位に静岡が入った。

(3) 冷凍魚取扱高

東京が前年に続き1位となった。2位静岡・3位神奈川・4位宮城・5位青森・6位千葉・7位北海道・8位大阪・9位愛知・10位三重となった。宮城と千葉、北海道と大阪が入れ替わった。

(4) 加工品取扱高

表 1 年次別取扱高

(単位：トン・千円・%)

	平成 8 年	7 年	6 年	5 年	4 年	3 年	2 年
総数量 前年比	725,624 98.3	738,236 96.8	762,829 97.5	782,782 96.9	807,920 97.0	832,532 98.3	847,319 97.7
総金額 前年比	696,941,817 102.5	680,172,945 95.4	712,946,992 95.3	748,202,651 92.9	804,962,014 97.4	826,250,552 97.9	843,694,370 103.7

表 2-1 年次別魚種別取扱数量

(単位：トン・%)

年次 魚種	平成 8 年		7 年		6 年		5 年		4 年		前年比					8年 / 2年
	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	8年	7年	6年	5年	4年	
総数	725,624	100.0	738,236	100.0	762,829	100.0	782,782	100.0	807,920	100.0	98.3	96.8	97.5	96.9	97.0	86
鮮魚	183,138	25.2	191,772	26.0	184,057	24.1	186,230	23.8	192,165	23.8	95.5	104.2	98.8	96.9	105.9	106
活魚	13,995	1.9	14,650	2.0	13,902	1.8	13,622	1.7	13,411	1.7	95.5	105.4	102.1	101.6	104.0	111
貝類	57,631	7.9	56,149	7.6	56,352	7.4	58,873	7.5	59,906	7.4	102.6	99.6	95.7	98.3	101.1	94
冷凍魚	186,010	25.6	191,581	26.0	214,511	28.1	226,675	29.0	246,266	30.5	97.1	89.3	94.6	92.0	91.8	65
淡水魚	4,185	0.6	4,305	0.6	3,812	0.5	3,748	0.5	4,427	0.5	97.2	112.9	101.7	84.7	97.6	99
海藻類	7,761	1.1	7,599	1.0	7,733	1.0	7,651	1.0	7,505	0.9	102.1	98.3	101.1	101.9	97.8	100
加工品	272,904	37.6	272,181	36.9	282,461	37.0	285,983	36.5	284,240	35.2	100.3	96.4	98.8	100.6	95.2	90

表 2-2 年次別魚種別取扱金額

(単位：百万円・%)

年次 魚種	平成 8 年		7 年		6 年		5 年		4 年		前年比					8年 / 2年
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	8年	7年	6年	5年	4年	
総数	696,942	100.0	680,173	100.0	712,947	100.0	748,203	100.0	804,962	100.0	102.5	95.4	95.3	92.9	97.4	83
鮮魚	187,659	26.9	185,410	27.3	186,566	26.2	192,123	25.7	200,208	24.9	101.2	99.4	97.1	96.0	101.4	98
活魚	25,190	3.6	24,161	3.6	24,626	3.5	25,677	3.4	25,348	3.1	104.3	98.1	95.9	101.3	97.3	95
貝類	51,848	7.4	52,141	7.7	54,362	7.6	56,178	7.5	59,899	7.4	99.4	95.9	96.8	93.8	96.0	83
冷凍魚	208,194	29.9	196,972	29.0	219,061	30.7	229,065	30.6	264,618	32.9	105.7	89.9	95.6	86.6	93.6	68
淡水魚	5,386	0.8	5,455	0.8	5,343	0.7	5,125	0.7	5,526	0.7	98.7	102.1	104.3	92.7	93.9	96
海藻類	3,073	0.4	2,986	0.4	3,025	0.4	3,223	0.4	3,366	0.4	102.9	98.7	93.9	95.2	99.4	98
加工品	215,593	30.9	213,047	31.3	219,964	30.9	236,872	31.7	245,977	30.6	101.2	96.9	92.9	96.3	99.0	87

表 2-3 年次別魚種別平均価格

(単位：キログラム円・%)

年次 魚種	平成 8 年		7 年		6 年		5 年		4 年		対平成 2 年指数				
	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	8年	7年	6年	5年	4年
総数	960	104.2	921	98.5	935	97.8	956	96.0	996	100.4	96	92	94	96	100
鮮魚	1,025	106.0	967	95.4	1,014	98.3	1,032	99.0	1,042	95.7	92	87	91	93	94
活魚	1,800	109.2	1,649	93.1	1,771	94.0	1,885	99.7	1,890	93.6	85	78	84	89	89
貝類	900	96.9	929	96.3	965	101.3	953	95.3	1,000	95.0	88	91	94	93	98
冷凍魚	1,119	108.9	1,028	100.7	1,021	101.0	1,011	94.0	1,075	102.1	104	96	95	94	100
淡水魚	1,287	101.6	1,267	90.4	1,402	102.5	1,368	109.6	1,248	96.2	98	96	106	104	95
海藻類	396	100.8	393	100.5	391	92.9	421	93.3	451	101.6	98	97	97	104	112
加工品	790	100.9	783	100.5	779	94.1	828	95.7	865	104.0	97	96	95	101	106

表 3 — 1 市場別・年次別取扱数量

(単位：トン・円)

市場	年次 区分	平成 8 年		7 年		6 年		5 年		4 年	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総数	数量 前年比	725,624 98.3	100.0	738,236 96.8	100.0	762,829 97.5	100.0	782,782 96.9	100.0	807,920 97.0	100.0
築地	数量 前年比	628,567 98.2	86.6	640,292 96.1	86.7	666,076 97.5	87.3	683,173 97.0	87.3	704,169 97.1	87.2
足立	数量 前年比	57,272 98.0	7.9	58,456 100.8	7.9	57,980 93.7	7.6	61,890 93.7	7.9	66,051 98.8	8.2
大田	数量 前年比	39,786 100.8	5.5	39,488 101.8	5.3	38,773 102.8	5.1	37,719 100.0	4.8	37,701 93.0	4.7

表 3 — 2 市場別・年次別取扱金額

(単位：百万円・%)

市場	年次 区分	平成 8 年		7 年		6 年		5 年		4 年	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総数	金額 前年比	696,942 102.5	100.0	680,173 95.4	100.0	712,947 95.3	100.0	748,203 92.9	100.0	804,962 97.4	100.0
築地	金額 前年比	610,378 102.4	87.6	596,193 95.2	87.7	626,411 95.4	87.9	656,884 92.8	87.8	707,680 97.0	87.9
足立	金額 前年比	49,747 101.9	7.1	48,835 96.6	7.2	50,571 90.8	7.1	55,717 90.6	7.4	61,467 102.5	7.6
大田	金額 前年比	36,817 104.8	5.3	35,145 97.7	5.2	35,965 101.0	5.0	35,602 99.4	4.8	35,815 98.0	4.4